

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 2 年 7 月 3 日現在

機関番号：34315

研究種目：基盤研究(C)（特設分野研究）

研究期間：2015～2019

課題番号：15KT0136

研究課題名（和文）資源通過国の資源紛争当事者化についての研究

研究課題名（英文）Research on the resource conflict around the landlocked countries

研究代表者

宮脇 昇（Miyawaki, Noboru）

立命館大学・政策科学部・教授

研究者番号：50289336

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,900,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、政治体制、民族比率の2つの作業仮説を検討することを通じて、資源通過国が紛争当事国となる蓋然性・潜在性について研究してきた。最終年度である平成31年度においては、焦点をあてた新規性の高い紛争研究として、体系化した包括的プラットフォームを形成するべく、研究の成果（2つのモデル）と処方箋を集大成した研究成果として、法律文化社より『資源地政学』を発刊した。発刊に先立ち、研究分担者、協力者による研究会を開催し、知見の十分な共有を図った。この成果発信を通じて、資源通過国の資源当事者化を回避する斬新な知見を広く世に問うことができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

現代の紛争の中でも資源紛争ほど人類に大きな影を落とした紛争はない。資源配分における当事者意識の覚醒は、民主主義の産物でもある。民主主義諸国を通過するエネルギー資源をめぐる、国内の既存の民族紛争と資源が「情報」を通じて結合し、資源通過の費用が国内の民族間対立と連動して争点化する。2つの仮説をもとに学際的な研究体制により新規性・独自性の高い体系的研究を行い、「内陸国の罠」概念を中心に学際的な知的プラットフォームを形成した。

研究成果の概要（英文）：This study shows the conclusion that connectivity should be improved to promote freer movement and trade. This will contribute to more balanced trade with big power, constituting the situation of mutual assured dependence. In the economic security, For example, the Mongolian enervator of improving food security will be regarded as a hopeful model of neutral economic diplomacy for strong economic security, which is regarded as the first step to the new balanced order. In terms of continuous, balanced economic diplomacy for landlocked countries, strong ties with neighbouring countries should be kept and enhanced. This should be perceived as economic diplomacy in which partners should create an economic network and consortium for freer trade, preventing from the so-called trap of landlocked area.

研究分野：国際政治学

キーワード：資源 資源通過 エネルギー 内陸国の罠 民主化 少数民族 接続性 パイプライン

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

2014年のウクライナ紛争が、ロシアからウクライナ・欧州へのガスの価格交渉に端を発することは記憶に新しい。しかし対照的なことに、ロシアからベラルーシ経由でEUに延びるパイプラインの価格交渉は、ほとんど国際的に争点化しない。他にもモンゴルから中国経由で対日輸出されている石炭も同様である。ウクライナの例のように、資源通過と民族(言語)・領土紛争が結合する場合はなぜか、すなわちある事例では、紛争と資源通過が負のスパイラルに陥る。しかし他の事例ではその陥穽は生じない。そこで、次の2つの既存研究を援用して資源通過国の紛争当事者化の回避策を考察することが肝要であると考えた。

2. 研究の目的

現代の紛争の中でも資源をめぐる紛争ほど人類に大きな影を落とした紛争はない。資源配分における当事者意識の覚醒は、民主主義の産物でもある。ここに民主主義体制をとる諸国を通過するエネルギー資源をめぐる、国内の既存の民族紛争とエネルギー資源とが「情報」を通じて結合してしまう陥穽がある。価格交渉という経済合理性によって解決されるべき資源通過の費用が国内の民族間の対立と連動して争点化する。特に20世紀後半からの民主化の「波」により、資源・民族の両要素が移行期の民主主義体制によって結合する事例が増加する。ここに、単なる地域紛争には収まらない包括的研究としてこの課題の新規性があり本研究の独自性がある。この問題を検討すべく2つの仮説をもとに学際的な研究体制により新規性・独自性の高い体系的研究を行うのが本研究の目的である。

3. 研究の方法

ラセット(Bruce M. Russett)による民主的平和論の研究、即ち自由民主主義的体制国同士の戦争可能性が小さく、逆に民主国家と非民主国家間の戦争可能性は小さくないという命題が歴史的な事例をもとに検証されて久しい。この民主体制による平和論は、資源の生産・通過・消費国の3者間の政治体制でも適用されるか(本文「1」の詳述)。この問いに立脚するのが第一仮説である。即ち、民主的平和モデル=「資源紛争は、生産・通過・消費各国内の政治体制により変化する」である。資源通過国が民主的であれば交渉者は民族問題を含めた世論の分裂に直面する。本研究では、資源の生産・通過・消費国の3者の政治体制を吟味し、エネルギーの価格交渉という経済合理性の課題が民主体制下で高度に政治化し、関係国の外交政策の課題となり同時に通過国内の民族紛争と連動し、紛争拡大の危険を惹起させることに注目する。

既に資源と紛争をめぐるのは、「天然資源の呪い」と総称される研究により、天然資源産出が資源生産国の発展につながらないことが統計的に示されている(Ian Bannon, et al., 2003)。このモデルのうち民族構成比率の条件モデルを用いて資源紛争の発生可能性を考える。すなわち資源の「呪い」モデルとし、「多数民族の割合によって資源通過国の紛争が拡大しやすい」とする。具体的には、通過国における多数民族の割合が一定の場合、資源通過にまつわる紛争が生じやすいと考える。この仮説をもとに検証を行った。

4. 研究成果

これまでの本共同研究を集大成した研究成果として、過年度の各学会報告等における議論をふまえて、法律文化社より『資源地政学』を発売した。発売に先立ち、研究分担者、協力者による研究会を開催し、知見の十分な共有を図った。この成果発信を通じて、資源通過国の資源当事者化を回避する斬新な知見を広く世に問うことができなかった。

具体的には、まず内陸国の畏から議論を始めた。即ち「内陸国は、公海の自由及び人類の共同の財産に関する権利を含むこの条約に定める権利の行使のために海への出入りの権利を有する。このため、内陸国は、通過国の領域においてすべての輸送手段による通過の自由を享有する。」(海洋法条約125条)とされ「通過運送に対しては、いかなる関税、租税その他の課徴金も課してはならない」(同127条)に補われる形で、通過の自由は完全なものに見えるにもかかわらず、現実には、内陸国には資源輸送にあたっての桎梏がある。例えば沿岸国において非関税障壁あるいは地方税等が課せられることが多く、同条の内容の実行は、内陸国と沿岸国の二国間合意次第である。大局的にいえば、1)海軍力不在ゆえの軍事不均衡による同盟の停頓、2)貧弱な接続性に起因する多くの貿易障壁と貿易不均衡が内陸国に見られる。なぜ内陸国は、軍事的にも経済的

にも沿岸国に優れないのか。そこには内陸性に起因する限界があるのではないか。これを代表者は「内陸国の罨」と呼ぶ。こうした状況をはじめ世界各地の事例を2つの仮説をもとに分析したものが本書である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計14件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 浦部浩之	4. 巻 49
2. 論文標題 第8回米州サミット 低調な米州関係を露呈	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 外交	6. 最初と最後の頁 68-69
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 浦部浩之	4. 巻 20
2. 論文標題 ハイチ・ドミニカ共和国間の外交摩擦とカリブの地域主義	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 マテシス・ウニウェルサリス	6. 最初と最後の頁 1-23
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 宮脇昇	4. 巻 1
2. 論文標題 国際資源観光の可能性と課題	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 エネルギー安全保障	6. 最初と最後の頁 43-47
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 玉井雅隆	4. 巻 18
2. 論文標題 国連と欧州安全保障協力機構の協働体制 - 相互補完関係の成立に関する一考察	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 国連研究	6. 最初と最後の頁 151, 181
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 上久保誠人・三宅綾香	4. 巻 6
2. 論文標題 「エネルギーと福祉の循環型ネットワーク形成と紛争回-ロシア・サハリン州を事例として-」	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 地域情報研究	6. 最初と最後の頁 25-35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Masataka Tamai	4. 巻 *
2. 論文標題 The Barents Sea and Japan: Rethinking the relationship through the North Sea Route	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 The Barents and the Baltic Sea region : contacts, influences and social change	6. 最初と最後の頁 *.*
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 浦部浩之	4. 巻 18
2. 論文標題 「2015年ラテンアメリカ政治の動向と地域統合の展望 UNASURとCELACの現状と課題」	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 マテシス・ユニウェルサリス	6. 最初と最後の頁 39-66
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Masataka Tamai.	4. 巻 10
2. 論文標題 Energy Security, Economic Sanction and the OSCE : From Economic Dimension to Security Dimension.	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Journal of Policy Science	6. 最初と最後の頁 45-56
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宮脇昇	4. 巻 6
2. 論文標題 新フィンランド化試論	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 地域情報研究	6. 最初と最後の頁 36-51
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 玉井良尚・宮脇昇	4. 巻 1
2. 論文標題 資源	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 新グローバル公共政策 改訂第1版	6. 最初と最後の頁 204-214
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 浦部浩之	4. 巻 243
2. 論文標題 錯綜するラテンアメリカの地域統合 その動向と直面する課題	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 アジア研ワールド・トレンド	6. 最初と最後の頁 44-47
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Noboru Miyawaki	4. 巻 10
2. 論文標題 The Energy Interconnections between Liberal Democracies and Non-liberal Democracies in North East Area	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Journal of Policy Science	6. 最初と最後の頁 1-10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Takehiko Yamamoto	4. 巻 10
2. 論文標題 National Security Policy and Contemporary Geopolitics	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Journal of Policy Science	6. 最初と最後の頁 11-44
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Takehiko Yamamoto	4. 巻 5
2. 論文標題 Constructing an "Energy Security Community" in Northeast Asia:	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 地域情報研究	6. 最初と最後の頁 133-137
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計30件 (うち招待講演 8件 / うち国際学会 8件)

1. 発表者名 宮脇昇
2. 発表標題 Why does Mongolia need the OSCE ?
3. 学会等名 JAGG at TUFs
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 宮脇昇
2. 発表標題 Bilateral dialogue can foster multilateral dialogue: Implications from the CSCE and Japanese experience
3. 学会等名 Fifth Ulaanbaatar Dialogue on NEA Security
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 湯浅剛
2. 発表標題 Russia's Nuclear Energy Policy as a Factor of International Relations in Eurasia
3. 学会等名 BASEES Annual Conference 2018
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 湯浅剛
2. 発表標題 Regional Concepts in Japan's Foreign and Security Policy
3. 学会等名 Strategies, Statecraft, and Institutionalization, Annual Convention of International Studies Association
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 湯浅剛
2. 発表標題 原子力開発をめぐるユーラシアの国際関係
3. 学会等名 上智大学 哈爾浜学院顕彰基金シンポジウム 「21世紀のロシアのエネルギー戦略」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山本武彦
2. 発表標題 ユーラシア地戦略の相克とグローバル・ガバナンス connectographyとの関連で
3. 学会等名 第11回グローバル・ガバナンス学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山本武彦
2. 発表標題 " Changing Contours of East Asia: Challenges and Opportunities " Keenote Speech in the Young Scholar ' s Conference
3. 学会等名 Jawaharlal Nehru University (New Delhi) and Japan Foundation
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山本武彦
2. 発表標題 地経学的競争の時代とナショナル・インタレスト
3. 学会等名 「エネルギー戦略と地経学」研究会議
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山本武彦
2. 発表標題 Foreign and Security Policy of Japan,
3. 学会等名 Presidency University, Kolkata, India
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Noboru Miyawaki
2. 発表標題 New MAD in the NEA? Mutual Assured Dependence without Rich Connectivity from Mongolia ",
3. 学会等名 Conference of possibilities to promote economic security and cooperation of Northeast Asian Countries, (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Noboru Miyawaki
2. 発表標題 "Can the GTI bridge the gap between landlocked country Mongolia and island country Japan?"
3. 学会等名 The Seminar on Current States and Further Development of Greater Tumen Initiative, (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 湯浅剛
2. 発表標題 「ユーラシア国際関係におけるエネルギー・ファクター」
3. 学会等名 日本国際政治学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 浦部浩之
2. 発表標題 ハイチ・ドミニカ共和国間の外交摩擦と二つの地域主義
3. 学会等名 日本ラテンアメリカ学会・東日本部会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Takehiko Yamamoto
2. 発表標題 Deemed Export Control of Japan
3. 学会等名 The International Group of Experts on Export Regulations
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Takehiko Yamamoto
2. 発表標題 Changing Contours of East Asia: Challenges and Opportunities
3. 学会等名 Young Scholar 's Conference
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山本武彦
2. 発表標題 激震・東芝事件から30年 - 輸出管理ガバナンスの変化を追う
3. 学会等名 日本安全保障貿易学会第25回研究大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 玉井雅隆
2. 発表標題 保護されないマイノリティとしての移民労働者と欧州 - ナショナル・ガバナンス
3. 学会等名 グローバル・ガバナンス学会2017年度研究大会部会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Masataka Tamai
2. 発表標題 Minority Rights Regime in the OSCE and UN
3. 学会等名 ACUNS
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 山本武彦
2. 発表標題 日本のエネルギー安全保障とローカル・ガバナンス
3. 学会等名 秋田大学国際資源学部公開研究会『秋田から見る日本のエネルギー・ガバナンス』（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Noboru Miyawaki
2. 発表標題 The importance of security dialogue in NEA: implication from the OSCE experience
3. 学会等名 The Third Ulaanbaatr Dialogue on Northeast Asian Security (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 宮脇昇
2. 発表標題 「北東アジアエネルギー安全保障レジーム(ESR)を構築する「日露エネルギー憲章」の展望」
3. 学会等名 国際アジア共同体学会 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 宮脇昇
2. 発表標題 内陸国の資源輸送をめぐる政治
3. 学会等名 日本政治学会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 浦部浩之
2. 発表標題 「ラテンアメリカにおける新しい地域統合の現状と展望 UNASURとCELAC」
3. 学会等名 日本ラテンアメリカ学会第37回定期大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Masato Kamikubo
2. 発表標題 Business Power for Demicratisation: Lesson From Japan
3. 学会等名 Comparative Asian Research Network (CARN), (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 玉井雅隆
2. 発表標題 「北極海航路と日本」
3. 学会等名 日本公共政策学会2016年度大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 玉井雅隆
2. 発表標題 「北極海航路における資源輸送」
3. 学会等名 日本政治学会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 山本武彦
2. 発表標題 「CICAからエネルギー安全保障共同体の創成へ 東アジア安全保障複合圏における経済集団安全保障レジームの形成に向けて」、
3. 学会等名 2016国際アジア共同体学会国際会議・関西学会発足記念大会（国際学会）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Tsuyoshi Yuasa
2. 発表標題 “Russia, China and Japan's Role and Strategy in Central Asia,”
3. 学会等名 IFRI Seminar “Assessing the Role of Russia, from Europe to Asia: Japanese and European Perspectives (招待講演) (国際学会)”
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 山本武彦
2. 発表標題 「資源地政学と“資源の呪い” - “資源の呪い” 仮説の内容を吟味する」
3. 学会等名 一般社団法人北東アジアエネルギー安全保障ネットワーク・ジャパン第1回研究会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Masataka Tamai
2. 発表標題 Barents Sea and Japan
3. 学会等名 Symposium: The Barents and the Baltic Sea region: contacts, influences and social change (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2015年

〔図書〕 計21件

1. 著者名 湯浅剛	4. 発行年 2018年
2. 出版社 日本評論社	5. 総ページ数 304
3. 書名 現代中央アジア：政治・経済・社会	

1. 著者名 山本武彦	4. 発行年 2018年
2. 出版社 法律文化社	5. 総ページ数 238
3. 書名 グローバル・ガバナンス学 2 主体・地域・新領域	

1. 著者名 山本武彦	4. 発行年 2018年
2. 出版社 日本評論社	5. 総ページ数 263
3. 書名 一帯一路構想と日本 地政学と地経学を繋ぐ地技学的観点からの考察	

1. 著者名 文正仁 山本武彦、宮脇昇（翻訳）	4. 発行年 2018年
2. 出版社 志學社	5. 総ページ数 287
3. 書名 太陽政策 朝鮮半島の平和への道	

1. 著者名 宮脇昇	4. 発行年 2017年
2. 出版社 花伝社	5. 総ページ数 288
3. 書名 進藤栄一ほか編 東アジア連携の道を開く	

1. 著者名 上久保誠人	4. 発行年 2018年
2. 出版社 晃洋書房	5. 総ページ数 266
3. 書名 『逆説の地政学：「常識」と「非常識」が逆転した国際政治を、英国が真ん中の世界地図で読み解く』	

1. 著者名 湯浅剛	4. 発行年 2017年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 250
3. 書名 松戸清裕ほか編 ロシア革命とソ連の世紀3 冷戦と平和共存	

1. 著者名 浦部浩之	4. 発行年 2017年
2. 出版社 朝倉書店	5. 総ページ数 210
3. 書名 石井久生、浦部浩之編 世界地誌シリーズ10：中部アメリカ	

1. 著者名 浦部浩之	4. 発行年 2018年
2. 出版社 学文社	5. 総ページ数 29
3. 書名 矢ヶ崎典隆編 移民社会アメリカの記憶と継承 移民博物館で読み解く世界の博物館アメリカ	

1. 著者名 浦部浩之	4. 発行年 2018年
2. 出版社 学文社	5. 総ページ数 2
3. 書名 矢ヶ崎典隆編 移民社会アメリカの記憶と継承 移民博物館で読み解く世界の博物館アメリカ	

1. 著者名 山本武彦	4. 発行年 2017年
2. 出版社 志學社	5. 総ページ数 215
3. 書名 山本武彦、玉井雅隆 編 国際組織・国際制度（現代国際関係学叢書・第1巻）	

1. 著者名 山本武彦	4. 発行年 2017年
2. 出版社 志學社	5. 総ページ数 219
3. 書名 山本武彦、庄司真理子編 軍縮・軍備管理（現代国際関係学叢書・第2巻）	

1. 著者名 山本武彦	4. 発行年 2017年
2. 出版社 花伝社	5. 総ページ数 12
3. 書名 進藤ほか編 東アジア連携の道を開く	

1. 著者名 山本武彦	4. 発行年 2017年
2. 出版社 志學社	5. 総ページ数 15
3. 書名 山本武彦・玉井雅隆編 国際組織・国際制度（現代国際関係学叢書・第1巻）』	

1. 著者名 山本武彦	4. 発行年 2018年
2. 出版社 法律文化社	5. 総ページ数 20
3. 書名 グローバル・ガバナンス学会編 グローバル・ガバナンス学II	

1. 著者名 玉井雅隆	4. 発行年 2017年
2. 出版社 志學社	5. 総ページ数 245
3. 書名 山本武彦、玉井雅隆編 現代国際関係学叢書 第1巻 国際組織・国際制度	

1. 著者名 山本武彦	4. 発行年 2016年
2. 出版社 志學社	5. 総ページ数 169
3. 書名 鎌田ほか編、下北「核」半島と核燃基地 原子力のガバナンスをめぐる多層構造から見る	

1. 著者名 山本武彦	4. 発行年 2016年
2. 出版社 内外出版	5. 総ページ数 296
3. 書名 「エネルギー安全保障と“資源の呪い” “資源の呪い” 仮説の内容を吟味する」。金沢工業大学国際学研究所編『安全保障と国際関係』所収	

1. 著者名 横田匡紀著、広島市立大学広島平和研究所	4. 発行年 2016年
2. 出版社 法律文化社	5. 総ページ数 701
3. 書名 「越境環境汚染」「環境保護運動」「京都メカニズム」「国連環境開発会議(UNCED)」「自然保護運動」「地球環境問題」「『沈黙の春』(レイチェル・カーソン)」「ローマクラブ」「平和と安全保障を考える事典』	

1. 著者名 横田匡紀著、佐渡友哲、信夫隆司編	4. 発行年 2016年
2. 出版社 弘文堂	5. 総ページ数 358
3. 書名 「地球環境問題をどう解決するのか」『国際関係論【第2版】』	

1. 著者名 浦部浩之	4. 発行年 2015年
2. 出版社 アジア経済研究所	5. 総ページ数 245
3. 書名 [第5章] 石油をてことした外交戦略と新しい地域統合の模索 坂口安紀編 『チャベス政権下のベネズエラ』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	山本 武彦 (Yamamoto Takehiko) (10210535)	早稲田大学・政治経済学術院・名誉教授 (32689)	
研究分担者	浦部 浩之 (Urabe Hiroyuki) (30306477)	獨協大学・国際教養学部・教授 (32406)	
研究分担者	玉井 雅隆 (Tamai Masataka) (60707462)	立命館大学・政策科学部・非常勤講師 (34315)	
研究分担者	平川 幸子 (Hirakawa Sachiko) (80570176)	早稲田大学・付置研究所・准教授 (32689)	
研究分担者	上久保 誠人 (Kamikubo Masato) (80571075)	立命館大学・政策科学部・准教授 (34315)	

